

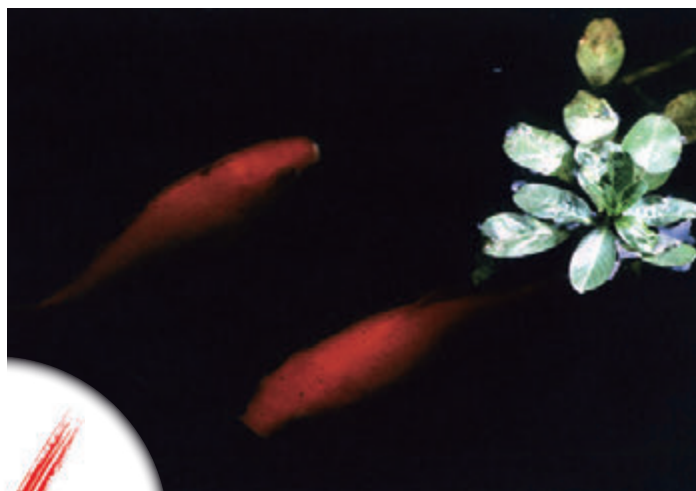
日本大学 生物資源科学部

校友会会報

2017年(平成29年) 第70号



『陽に向って』食品ビジネス学科4年 難波 亜美



『静』食品ビジネス学科4年 難波 亜美



『懐疑』生命化学科3年 外山 結恵



『回顧』生命化学科3年 外山 結恵

《目次》

学部長挨拶、会長挨拶	2
平成29年度総会・懇親会	3
平成28年度校友会会計決算書	4
平成29年度校友会会計予算書	5
校友会だより(富嶽会、紫友会)	6
校友会だより(角笛会、応用生物科学部校友会)	7
学部校友会29年度総会 表彰	8
カッター部OB・OG会総会	8
青年海外協力隊	8
富嶽会(生命農学科)	9
紫友会(生命化学科)	10
角笛会(獣医学科)	11

満喜葉会(動物資源科学科)	12
いもづる会(食品ビジネス学科)	13
あすなろ会(森林資源科学科)	14
桜水会(海洋生物資源科学科)	15
工学会(生物環境工学科)	16
FT会(食品生命学科)	17
拓友会(国際地域開発学科)	18
応用生物学科校友会	19
支部だより(宮城県支部、山形県支部、高知県支部)	20
支部だより(神奈川県支部)	21
日本大学生物資源科学部校友会会則	22
校友会からのお知らせ	24

「生物資源科学部の現状とその未来に向けて」

日本大学生物資源科学部 学部長

大矢 祐治

多くの教職員の皆様方のご支援・ご支持をいただき、平成27年12月14日に学部長に就任し、はや1年8ヶ月が経過いたしました。この間皆様のご支援・ご支持に対する重責を果たすべく、微力ながら学部と大学院、併設の鶴ヶ丘高等学校、藤沢高等学校、藤沢中学校、藤沢小学校の更なる発展のために全力で校務にあたっておりまいた。現在も、学部発展のため、多様な課題の解決に向け鋭意努力中であります。

本学部の教育・研究環境は農学系他大学と比較してもきわめて充実しておりますが、就任後は更なる施設面での整備を進めてまいりました。平成28年4月より新2号館に学習支援センター、学生相談室、保健室を、同年10月より12号館に就職支援センターをいずれもリニューアルオープンし、在学生にとって広く、明るく、個別相談もしやすい環境が整備されました。また、危機管理を目的とした学内施設の点検と整備も進めており

ます。キャンパス内の街灯・防犯カメラの設置、実験を実施する施設内の緊急シャワーの設置などを進め、学生が安全・安心できる環境作りに努めております。さらに、本学の教育に必要な施設である農場についても、その施設の更新並びに管理・運営体制の整備を進めております。研究面では、学部教職員の皆様のご努力により、国の科学研究費補助金などの外部研究費獲得状況において、本学部はトップクラスの実績を維持しております。また、その研究成果の指標となる論文引用度指数も上位に位置しております。これらが生物資源科学部の質の高い教育を維持する基盤になっております。次に、就職状況についてみますと、平成28年度は就職希望者に対する就職率が本学部では97.1%の高水準に達しました。これを機に、本年度のオープンキャンパスのポスターには「教育力・研究力・就職力を誇る全12学科」をアピールポイントとして記載致しました。



今日、18歳人口の減少と入学定員の厳格化、さらに受験者ニーズの多様化により、大学を取り巻く環境はますます厳しくなっております。今後も受験生から選り続けられ、卒業生からも本学部で学んで本当に良かったと言われ続けられる学部であるために、より質の高い教育・研究の実現を目指し、教職員が一丸となって取り組んでまいります。校友の皆様におかれましては引き続き、母校の発展のために暖かいご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

「ご挨拶」

日本大学生物資源科学部校友会 会長

内田 俊太郎

日本大学生物資源科学部校友会会報第70号の刊行にあたり一言ご挨拶申し上げます。

生物資源科学部は文系・理系を横断する12学科と大学院を擁し、約7,000名の学生が学ぶ国内屈指の農学系総合学部に発展し、既に校友は10万人を超えています。

この発展の原動力は、多くの諸先輩と教職員の皆様の研究・教育・指導のたまものであることを忘れてはなりません。

しかし、昨今は少子化の影響や入学定員の厳格化等の影響もあり全国の大学で受験者数の減少が見受けられ「選り続けられる大学」にやや陰りが生じてきたことも指摘されています。

また、受験生の減少が「大学教育

の質の向上」に妨げとなることを懸念しているメディアも多くなっています。

日本大学は我が国最大の総合大学として、グローバル化の推進と同時に地域に根ざした貢献に力を注いでいます。

各地域の自治体との強固な信頼関係と連携を構築することは、少子化問題・高齢化社会問題に対応する原動力になると確信しています。

「受験生からも社会からも選り続けられる大学であり続ける」この目標に向かって「母校への帰属意識の醸成」を胸に学生支援・学部支援の施策を展開してまいります。

皆様の更なるお力添えを賜りたく切にお願い申し上げます。



平成29年度日本大学生物資源科学部校友会通常総会・懇親会報告

平成29年度の通常総会及び懇親会は、平成29年7月8日(土)に開催しました。

通常総会は、日本大学生物資源科学部NUホールAにおいて午後2時から105名の会員に出席をいただき、津曲幹事長の開会の辞、司会進行で開始しました。

議長に相談役で満喜葉会の遠藤会員が就任し、議事録署名人に「工学会の石川会員」及び「拓友会の小谷田会員」が満場一致で選出されました。

議事に入り、まず、報告事項として①任期満了に伴う会長、副会長及び幹事長選出結果、②平成28年度の制度改正等、③平成29年度の会長賞受賞者の報告がありました。

続いて審議事項に移り執行部提案

の次の8議案を審議した結果、3の「会則の一部改正(案)」は出席者の3分の2以上(70名)の賛成、他は全て賛成多数で承認されました。

- 1 監査役の選出(案)
- 2 幹事の承認(案)
- 3 会則の一部改正(案)
- 4 平成28年度事業報告
- 5 平成28年度会計決算報告
- 6 平成28年度財産目録
- 7 平成29年度事業計画(案)
- 8 平成29年度会計予算(案)

審議終了後、遠藤議長は議長を退任、津曲幹事長が閉会宣言し、平成29年度通常総会は、午後3時49分閉会しました。

懇親会は、同日午後4時から学部食堂棟3階において山本日本大学副

学長、大矢生物資源科学部長を始め、瀬川日本大学校友会本部長及び他学部校友会の来賓の方々並びに学部教職員及び会員の方々総勢173名にご出席をいただき、近藤副会長の開会の辞の後、津曲幹事長の司会進行で開始しました。

校歌斉唱、内田校友会会長挨拶、来賓の挨拶、平成29年度会長賞の表彰式と続き、河本生物資源科学部事務局長の乾杯の音頭で懇親会は始まりました。

例年どおり、各分会毎にテーブル席を設け旧交を温めていただきました。

約2時間の懇親会の時間もあっという間に過ぎ、来年の再会を約束し、津曲幹事長の閉会の辞で午後6時10分、平成29年度懇親会は終了しました。



通常総会



通常総会



懇親会



懇親会



平成28年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計決算書

(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)

(金額単位：円)

科 目	28年度予算(A)	28年度決算(B)	差 異 (A - B)	摘 要
1. 前 年 度 繰 越 金	17,264,289	17,264,289	0	現 34,011円、預 17,230,278円 (普 4,230,278円、定 13,000,000円)
2. 会 費 収 入	44,472,000	44,445,000	27,000	
1) 準 会 員 還 付 金 収 入	43,992,000	43,962,000	30,000	7,327名 × 6千円
2) 正 会 員 還 付 金 収 入	480,000	483,000	▲ 3,000	161名 × 3千円
3. 寄 附 金 収 入	0	0	0	
4. 祝 金 等 収 入	1,200,000	1,189,000	11,000	総会・懇親会の会費及び祝金その他
5. 雑 収 入	100,000	126,116	▲ 26,116	預金利息、幹事会懇親会会費収入
当 年 度 収 入 合 計	45,772,000	45,760,116	11,884	
収 入 合 計	63,036,289	63,024,405	11,884	

(支出の部)

(金額単位：円)

科 目	28年度予算(A)	28年度決算(B)	差 異 (A - B)	摘 要
1. 分 会 交 付 金	21,480,000	20,857,000	623,000	初回還付金42,882千円 × 1/2 (大学院分 584千円除く)
2. 経 常 費	13,260,000	11,941,510	1,318,490	
1) 人 件 費	5,000,000	4,650,000	350,000	事務局勤務者に係る給与
2) 本 部 分 担 金	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び役員会費
3) 事 務 局 運 営 費	1,300,000	1,531,210	▲ 231,210	コピー機リース料、事務機器購入及び消耗品等購入諸経費
4) 通 信 費	2,600,000	2,536,983	63,017	切手・葉書購入、都道府県支部等への資料発送費等
5) 会 合 費	1,000,000	600,356	399,644	幹事会、執行役員会、各種会合(5委員会除く)に係る諸経費
6) 交 際 費	1,500,000	1,149,347	350,653	分会、都道府県支部、他学部校友会総会等に係る祝金等
7) 旅 費 交 通 費	1,300,000	944,538	355,462	出張旅費、運営補助費(5委員会除く)等
8) 支 払 手 数 料	90,000	59,076	30,924	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3. 事 業 費	19,680,000	13,086,447	6,593,553	
1) 総 会 費	2,000,000	1,542,217	457,783	総会・懇親会開催諸経費
2) 広 報 費	2,500,000	2,131,400	368,600	会報印刷、ホームページ管理費用等
3) 総務委員会運営費	50,000	6,000	44,000	委員会開催経費及び運営補助費
4) 財務委員会運営費	50,000	20,000	30,000	委員会開催経費及び運営補助費
5) 企画委員会運営費	50,000	18,000	32,000	委員会開催経費及び運営補助費
6) 広報委員会運営費	130,000	60,082	69,918	委員会・会報編集委員会開催経費及び運営補助費
7) 組織委員会運営費	150,000	45,872	104,128	委員会開催経費及び運営補助費
8) 記念事業補助費	200,000	100,000	100,000	分会及び支部の記念式典開催に伴う補助費
9) 準 会 員 対 応 費	10,000,000	8,550,226	1,449,774	学部に対する寄付及び藤桜祭、スポーツフェスタ等への支援
10) 表 彰 記 念 品 費	150,000	66,000	84,000	総会における表彰者に対する記念品等経費
11) スポーツ振興対応費	150,000	100,000	50,000	日本大学スポーツ振興特別委員会関連費用
12) 箱 根 駅 伝 対 応 費	150,000	107,000	43,000	箱根駅伝予選会及び本選の応援等に係る費用
13) 東日本大震災対応費	0	0	0	
14) 組 織 拡 充 計 画 費	1,000,000	239,650	760,350	都道府県支部等運営資金の一部補助等
15) 日本大学創立130周年募金	100,000	100,000	0	日本大学創立130周年記念事業募金 (H34年度まで10ヵ年)
16) 歴史展示室開設資金	2,000,000	0	2,000,000	学部創立60周年記念展示室の開設費用
17) ホームカミングデー経費	1,000,000	0	1,000,000	ホームカミングデー開催費用
4. 予 備 費	1,000,000	0	1,000,000	
当 年 度 支 出 合 計	55,420,000	45,884,957	9,535,043	
次 年 度 繰 越 金	7,616,289	17,139,448	▲ 9,523,159	現102,987円、預17,036,461円(普4,036,461円、定13,000,000円)
支 出 合 計	63,036,289	63,024,405	11,884	



平成29年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計予算書 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)

(金額単位：円)

科 目	29年度予算(A)	28年度予算	28年度決算(B)	差 異 (A - B)	摘 要
1. 前年度繰越金	17,139,448	17,264,289	17,264,289	▲ 124,841	現 102,987円、預 17,036,461円(普 4,036,461円、定 13,000,000円)
2. 会 費 収 入	43,248,000	44,472,000	44,445,000	▲ 1,197,000	
1) 準会員還付金収入	42,768,000	43,992,000	43,962,000	▲ 1,194,000	7,128名 × 6千円(3ヶ年平均 7,349名に3%減少見込む。)
2) 正会員還付金収入	480,000	480,000	483,000	▲ 3,000	160名 × 3千円(5ヶ年平均)
3. 寄 附 金 収 入	0	0	0	0	
4. 祝 金 等 収 入	1,200,000	1,200,000	1,189,000	11,000	総会・懇親会の会費及び祝金その他
5. 雑 収 入	100,000	100,000	126,116	▲ 26,116	預金利息、幹事会・懇親会会費収入
当年度収入合計	44,548,000	45,772,000	45,760,116	▲ 1,212,116	
収 入 合 計	61,687,448	63,036,289	63,024,405	▲ 1,336,957	

(支出の部)

(金額単位：円)

科 目	29年度予算(A)	28年度予算	28年度決算(B)	差 異 (A - B)	摘 要
1. 分 会 交 付 金	20,895,000	21,480,000	20,857,000	38,000	(初回還付金6,965名×6千円=41,790千円)× 1/2
2. 経 常 費	12,440,000	13,260,000	11,941,510	498,490	
1) 人 件 費	5,000,000	5,000,000	4,650,000	350,000	事務局勤務者に係る給与
2) 本 部 分 担 金	470,000	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び役員会費
3) 事 務 局 運 営 費	1,200,000	1,300,000	1,531,210	▲ 331,210	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4) 通 信 費	2,500,000	2,600,000	2,536,983	▲ 36,983	切手・葉書代、都道府県支部等への資料発送費等
5) 会 合 費	700,000	1,000,000	600,356	99,644	幹事会、執行役員会、各種会合(5委員会除く)に係る費用等
6) 交 際 費	1,300,000	1,500,000	1,149,347	150,653	分会、都道府県支部、他学部校友会総会等に係る祝金等
7) 旅 費 交 通 費	1,200,000	1,300,000	944,538	255,462	出張旅費、運営補助費(5委員会除く)等
8) 支 払 手 数 料	70,000	90,000	59,076	10,924	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3. 事 業 費	14,620,000	19,680,000	13,086,447	1,533,553	
1) 総 会 費	1,900,000	2,000,000	1,542,217	357,783	総会・懇親会開催諸経費
2) 広 報 費	2,400,000	2,500,000	2,131,400	268,600	会報印刷、パンフレット印刷、ホームページ管理費用等
3) 総務委員会運営費	20,000	50,000	6,000	14,000	委員会開催経費及び運営補助費
4) 財務委員会運営費	20,000	50,000	20,000	0	委員会開催経費及び運営補助費
5) 企画委員会運営費	20,000	50,000	18,000	2,000	委員会開催経費及び運営補助費
6) 広報委員会運営費	70,000	130,000	60,082	9,918	委員会、会報編集委員会開催会議及び運営補助費
7) 組織委員会運営費	70,000	150,000	45,872	24,128	委員会開催経費及び運営補助費
8) 記念事業補助費	200,000	200,000	100,000	100,000	分会及び支部の記念式典開催に伴う補助費
9) 準会員対応費	9,000,000	10,000,000	8,550,226	449,774	学部に対する寄付及び藤桜祭、スポーツフェスタ等への支援
10) 表彰記念品費	0	150,000	66,000	▲ 66,000	表彰に係る記念品等の経費で29年度から総会費で対応
11) スポーツ振興対応費	100,000	150,000	100,000	0	日本大学スポーツ振興関連等費用
12) 箱根駅伝対応費	120,000	150,000	107,000	13,000	箱根駅伝予選会及び本選の応援等に係る費用
13) 組織拡充計画費	500,000	1,000,000	239,650	260,350	都道府県支部等運営資金の一部補助等
14) 日本大学創立130周年募金	100,000	100,000	100,000	0	日本大学創立130周年記念事業募金 (H34年度まで10ヵ年)
15) 歴史展示室開設資金	50,000	2,000,000	0	50,000	学部創立60周年記念展示室の開設準備費用
16) ホームカミングデー経費	50,000	1,000,000	0	50,000	ホームカミングデー開催準備費用
4. 予 備 費	1,000,000	1,000,000	0	1,000,000	
当年度支出合計	48,955,000	55,420,000	45,884,957	3,070,043	
次年度繰越金	12,732,448	7,616,289	17,139,448	▲ 4,407,000	
支 出 合 計	61,687,448	63,036,289	63,024,405	▲ 1,336,957	

校友だより

農業者育成を目指して

農学科

平成2年卒業 浅野 伸一

宮城県小牛田農林高等学校

はじめに、宮城県で仕事をしている一人として、東日本大震災後の暖かい励ましや支援を頂いた全国の皆様に心から厚くお礼を申し上げます。

宮城県の高校教員になり今年で23年目となります。東日本大震災後は、県農業大学校、県農業高校にそれぞれ3年間、勤務しました。今年の4月からは小牛田農林高校に勤務しています。

県農業高校は津波により校舎・農場施設とも壊滅的な被害を受けた学校で、今も農業・園芸総合研究所の敷地内に設置されたプレハブ校舎で授業を行っています。

県農業高校での3年間は、教頭として新校舎・新農場の準備と文部科学省スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）指定事業が特に大きな仕事でした。

農業高校の最大の使命は、次世代の農業者を育成することだと思っていますが、非農家出身の生徒増、高校入学・卒業後の目的が多様な状況や、食農教育や地域連携、環境教育等も期待され農業理解者や農業を活用した人間育成へシフトしていることなどもあり、その目標が達成できていない状況にあります。

SPHでは、高校が農業を取りまく状況の変化に対応できていないことや、農業を担当する教員の技術力やその実践力が不足していることを課題と捉え



県農業大学校の学生達と

取り組みを行いました。

今後も課題をしっかりと捉え、地域、大学等や多くの機関と連携しながら、次世代を担う実践力を持った農業者の育成を目指し取り組んでいきたいと考えています。



就農者育成の提案で



現在の職場で子牛と

地産地消 一湘南最後の蔵元でー

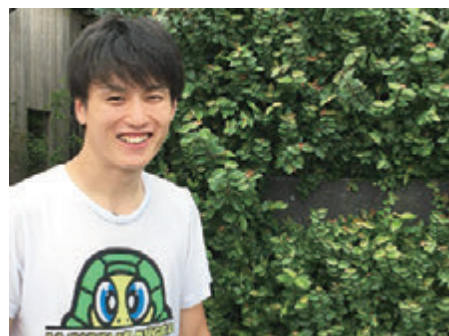
生命化学科

平成27年卒業 臼井 一貴

熊澤酒造株式会社

生命化学科に入学し、動物・植物・微生物・環境・食など広い分野について勉強しました。その中でも食と美味しさ、微生物が深く関係している発酵により様々な味を呈する日本酒やビールなどのお酒について公私ともに興味を持ち、卒論研究では食品化学研究室に入りました。研究室では日頃から研究の合間などにお酒を呑む機会に恵まれていました。また、工場見学と称して訪れた、茅ヶ崎市にある熊澤酒造で日本酒の製造方法や地ビールの作り方などを杜氏（現在の上司；五十嵐氏）から説明してもらい、その場で呑んでその味を体感するという機会を頂きました。熊澤酒造は湘南の地に残る最後の蔵元と言われ、日本酒ブーム後の不況を生

き残り、茅ヶ崎・藤沢で日本酒・地ビールを中心に多くのファンにより支えられる酒造会社でもあります。卒論学生のころ、私は就職活動で『ものづくり』に関わる仕事につきたいと考えており、この工場見学と恩師からの紹介が決め手となり、地産地消で湘南でも高い評価を得ている熊澤酒造で杜氏（日本酒の造り手）となるべく現在ではいろいろなことに挑戦しております。



湘南最後の蔵元 熊澤酒造 臼井 一貴 氏

近年の日本国内での日本酒の消費は残念ながら、若者の日本酒離れなどもあり、減少しておりますが、世界的にはその需要は増すばかりです。上司は海外での技術指導や品評会などを年間に数多くこなしております。現在は勉強と称して『湘南ビール』の造り手としてビールの製造全般に関わっておりますが、将来、日本酒の造り手として湘南の地から世界中で愛される酒を作りたいと思っています。

熊澤酒造には『よっぱらいは日本を豊かにする』という社是があります。私はこの社は「湘南ビール」の作業工程



が大好きで、かつて「のんべい化学科＝農芸化学科」と呼ばれていた生命化学科の卒業生として、『よっぱらいは世界を豊かにする!』と仕事の同僚たちと熱く語りながら、湘南の地でがんばっております。

母校の近くに動物病院を開業して

獣医学科

平成4年卒業 金井 修一郎

むつあい動物病院

平成19年に、生物資源科学部の最寄り駅である六会日大前駅の近くに動物病院を開業しました。私は横浜市出身で、卒業後、神奈川県内の動物病院に勤務していましたが、高度医療である二次診療の大切さを感じ、中川秀樹先生(角笛会会長)の推薦により日本大学動物病院(ANMEC)の無給研修医(週2日)となり、平成11年から8年間、一次診療の仕事をして、二次診療の勉強もしました。そして10年前に、縁あって母校の近くに動物病院を開業しました。現在は地域の方々との付き合いを大切に一次診療をしています。治療や診断が困難な症例が来院したときには、ANMECを紹介し二次診療をお願いしています。

また、平成13年より大学院研究生をしており、現在は獣医生化学研究室でイヌの血液や糖代謝に関する研究をしています。平成27年に日本大学獣医学会で、私たちの研究が学会賞を頂きました。大学から近いお蔭で、休診日のほか、昼休み、勤務後の時間も利用して、時には深夜まで研究を続けております。

学生時代はサークル活動にも力を入れていました。キックボクシング部〔山崎照朝氏(食品経済学科 昭和47年卒: 第一回極真空手全日本王者)創設: 当初は同好会〕の第21代農獣医学部主将を務め、現在も本部OB会役員として多くの方と楽しく交流を続けています。

母校の近くに開業したことで、大学



むつあい動物病院にて

訪問後の卒業生がよく立ち寄ってくれます。以前は事務手続き、恩師への挨拶の後という方が多かったのですが、最近はお子様の進学の都合などで来られる方が増えています。日に日に新たに進化する母校の様子に皆様驚かれるようです。母校を訪問される際は、ぜひ当院にもお立ち寄りください。



第53回日本大学獣医学会にて、学会賞の授与(筆者:左端)



後楽園ホールにて、“日大の龍”こと山崎照朝先輩と一緒に

植物成分に魅せられて

応用生物科学科

平成10年卒業 嶋田 典基

株式会社常磐植物化学研究所

植物の作り出す特徴的な成分に興味を持ち、その生合成研究を生体分子学研究室で始めてから現在まで、植物の成分に関わる仕事を続けています。学部から大学院、ポストドクター時代は、フラボノイド生合成に関わるさまざまな酵素・遺伝子について研究を進め、植物がどのようにして多様な成分を作り出す能力を獲得したのか、その一端に触れることが出来ました。成分の生合成に関する研究に取り組んだこの期間は、現在の仕事にもつながるかけがえのないものでした。

私が現在勤めている株式会社常磐植物化学研究所では、世界中からさまざまな植物を集めて成分の抽出・精製を

行っています。製造した製品は医薬品・化粧品・健康食品の原料として使用されており、ドラッグストアや食料品店に並んでいる商品の多くに私たちの製品を見ることが出来ます。また、抽出・精製技術を活かして研究用の高純度精製品の製造も行っています。私は品質管理に関わる業務を行っており、店舗等で私たちの製品を見るたびに責任の大きさとやりがいを感じています。



巨大な釜で植物エキスを抽出

また、社名に「植物化学研究所」とありますが、植物の魅力を若い世代に知って欲しいという想いから、教育CSRの一環として、小学生にブルーベリージュースからアントシアニンを分けとる実験なども実施しています。こういった体験から将来、植物化学の研究を目指す人材が出てくれることを期待しています。



小学生の実験でカラムクロマトグラフィを行いました

私たちの豊かな生活を支えてくれている植物たち。その植物たちの作り出す成分の魅力、不思議さを多くの人に伝えたいと考えながら日々を過ごしています。

学部校友会 29 年度総会で 2 氏を表彰

— 濱中良平氏・小野 隆氏 —



左から濱中良平氏、内田俊太郎校友会会長、小野 隆氏

●**濱中 良平氏**：昭和 40 年 3 月に林学科を卒業され、三重県尾鷲市で 9 代続く森林経営に携わるとともに昭和 54 年から 38 年間保護司として活動された功績により平成 29 年春の叙勲において瑞宝双光章を受章されました。(あすなろ会所属)

●**小野 隆氏**：昭和 41 年 3 月に食品製造工学科を卒業され、昭和 58 年から宮城県泉市市議、仙台市市議、宮城県県議と永年に亘り議員活動を続け地域社会の発展に貢献された功績により、平成 28 年秋の叙勲において旭日小授章を受章されました。(F T 会所属)

カッター部 OB・OG 会総会とカッター部の変化

カッターという言葉聞いてすぐに右の写真の舟だと分かる方は少ないと思います。軍艦や客船の救命ボートでしたからカッターを漕ぐクラブを持つのは、船に関わる学校に限られてしまいますので仕方ないことです。我が校は農獣医学部時代、水産学科の学生有志が発起人となりカッター同好会を発足させました、その中に TV 番組「開運なんでも鑑定団」でお馴染みの中島誠之助さんがいたのです、3 年後にはカッター部となりそれ以来あと数年で 60 歳となります。カッター部は現在カッター一隻を所有し平塚港に係留、部員は藤沢校舎から通って練習をしています。

6 月 24 日(土)にカッター部 OB の中野氏の経営する、お好み焼き「文字平」を会場としてカッター部 OB・OG 会総会が開催されました。参加者の中に同好会から部に引き上げた昭和 39 年の卒業生 4 人の姿が見られ、議事終了の後に 58 代目となる現役 3 年生部員 2 人(主将、副主将)が合流、おじいさんと孫程もある懇親会の席となりました。懇親会では 6 月 3 日に



下関で行われた全日本カッターレースが話題となり、我が校で初めて女子部員 2 人が男子クルーに加わり漕いだこと、又、今年はクルーとして漕ぎたいという 2 年生の女子と 1 年生女子の 2 人が新入部員となったことで、い

よいよカッター部も女性の進出かと話題になりました。女子部員は 2 年前から艇指揮、艇長(舵取り)を勤めておりますが漕ぎ手では初めて、女子が全クルーの 1/3 を占める時代になってきました。全日本のカッターレースには 1000m を 6 人で救命艇を漕ぐ女子の部がありますが、12 人で 2000m を漕ぐカッターに 2 人の女子が加わったのは日本大学が初めてではないでしょうか、長い歴史の中で大きな変化を迎えることになりました。カッター部クルーは女人禁制ではありません、漕ぎたいという女性がいなかったのです(念の為)、他の大学も同じでしょう。



カッター部 OB・OG 会ではオリンピックが開催される年に大きな催しを行っています。昨年はブラジルオリンピックの年で総会を屋形船で行った事を校友会報で報告しましたが、次の東京オリンピックの年は盛大にカッター部 60 周年記念式典を行うことになるでしょう。

左の写真は懇親会の様子です、3 か所に分かれたので、全員を撮ることが出来ませんでしたが盛況のうちにお開きとなりました。上の写真はレースを終え艇に係留位置に移動しようとしているところ。船尾に女性クルーが写っています。主催校は水産大学校でした。

今後も機会を見て情報をお伝えします。皆様のご支援をお願いします。

記：原 博隆(昭和 44 年水産学科卒)

校友(会員、準会員)が 青年海外協力隊に貢献！

ほとんど知られていませんが、日本大学が青年海外協力隊に派遣した卒業生は、1200 名を超えています。これは全国の大学の中で No.1 です。特に生物資源科学部は農林水産分野に 400 名以上を派遣しており、その貢献度は高く評価されています。中でも、国際地域開発学科(旧:拓植学科)卒で、フィリピンで青年海外協力隊活動を経て JICA 専門家となった坪井達史氏は、アフリカにおける稲作普及に多大な貢献をしたことが評価され、News Week 誌の「世界に尊敬される日本人 100 人」に選ばれ、食の新潟国際賞、日本熱帯農業学会賞、国際功労賞など多くの表彰を受けています。テレビでも特集番組が組まれ、雑誌や新聞でも数多く報道されています。さらに、坪井門下生の拓友会の校友が、JICA 稲作専門家として、ウガンダ(宮本輝尚)、エチオピア(糟谷正広)、カメルーン(栗

原一寿)で活動しています。その関係を強化すべく、平成 27 年 12 月に本学部と青年海外協力隊事務局との間で、ウガンダの稲作分野に本学部の学生を優先的に派遣する 5 年間の



ウガンダで稲作指導をしている坪井達史 OB

の連携協定が締結されました。その協定に基づいて昨年は学部生 1 名、大学院生 1 名が派遣されました。今年度も 3 名が派遣されます。遠く離れたアフリカの貧困と食料飢餓を救うため、校友が汗を流しています。「日大魂がアフリカを救う」、そんな評価に近い将来訪れるかもしれません。

(文責：拓友会 倉内 伸幸)

富嶽会

生命農学科

連絡先：園芸科学研究室
0466-84-3508 事務局長 立石 亮
E-mail: tateishi@brs.nihon-u.ac.jp

平成 29 年度富嶽会総会について

平成 29 年度 5 月 13 日（土）に 121 講義室において平成 29 年度富嶽会総会が開催されました。平成 28 年度富嶽会事業報告・決算報告・監査報告および平成 29 年度富嶽会事業計画案・予算案等が審議され了承されました。総会終了後、講演会において平成 19 年度作物科学研究室卒業で株式会社ドール勤務の丸山剛平氏による「バナナの一般知識と輸入業者としての課題」、遺伝育種科学研究室教授山田昌彦先生による「ブドウ新品種“シャインマスカット”の育成と普及」の 2 題の講演が行われ、多数の会員・準会員の参加を得て盛会となりました。

学部校友会会報の 発送方法について

総会において、学部校友会会報の発送方法が見直されることとなりました。今後は HP または Facebook を中心とした情報発信に努め、冊子本体は希望される会員にのみにお送りすることとなりました。従来と同様に郵送を希望される方は同封の葉書にてご返信くださいますようお願い申し上げます。なお、Facebook のアド

レスは<https://www.facebook.com/AGricultural.Bioscience.NU/>です。学科の動向と富嶽会に関するお知らせを発信していきますので是非ご覧くださいとともに、Facebook のアカウントをお持ちの方は是非「いいね」をお願いします。



研究室体制の変更について

昨年に続き、学科教員の退職および新規採用、昇格が行われましたのでご報告致します。永年にわたり学科の発展のためにご尽力いただきました緑地環境科学研究室内の葉山嘉一准教授が平成 29 年 3 月 31 日をもって退職されました。葉山先生は昭和 56 年 4 月に旧造園学研究室に助手として着任され、以来鳥類の生態と緑地との関係、特に里山環境における樹林地・草地の空間構造および植生管理と出現鳥類組成との関わりについての研究と教育に尽力されました。ここに改めて感謝申し上げます。新規採用の教員として、植物医科学研究室に北 宜裕教授、花の科学研究室に水田大輝専任講師、応用昆虫科学研

究室に山本裕一助手、農業生産技術研究室に東未来助手、また学科事務室に伊藤まり実習助手をお迎えしました。園芸科学研究室の立石 亮先生と花の科学研究室の窪田聡が教授に昇格し、腰岡政二教授が農業生産技術研究室へ移動されました。また、藤田佳克先生と岩野秀俊先生は特任教授として任命されました。本年度から、生命農学科では表にあります通り 22 名の教員で学科の運営にあたることとなりました。今後ともよろしくお願いいたします。



山本 裕一 助手



東 未来 助手



伊藤 まり 学科事務

国際交流活動

タイ国メチヨー大学との相互学生研修制度に基づき、本年度は 15 名の学生が 9 月 3 日から 9 月 13 日の 11 日間にわたり、熱帯農業に関する講義、フィールド実習を行う予定です。今回で 3 回目の実施となり、井村准教授、肥後助教、伊藤実習助手が引率します。（窪田 聡）



北 宜裕 教授



水田 大輝 専任講師

平成 29 年 4 月 1 日現在の生命農学科各研究室の教員配置

研究室	教授	准教授	専任講師	助教	助手	特任教授
作物科学	磯部勝孝			肥後昌男		
花の科学	窪田 聡		水田大輝			
園芸科学	立石 亮			上吉原裕亮		
遺伝育種科学	山田昌彦	穴戸理恵子		奈島賢児		
植物医科学	北 宜裕	井村喜之				藤田佳克
応用昆虫科学		畠山吉則			山本裕一	岩野秀俊
緑地環境科学	大澤啓志		藤崎健一郎			
農業生産技術	腰岡政二		百瀬博文		東 未来	
学科事務	栗林真珠美、伊藤まり					

紫友会

生命化学科

連絡先：発酵化学研究室

0466-84-3945 事務局長 荻原 淳

E-mail: j-ogihara@brs.nihon-u.ac.jp

平成29年度 紫友会

【理事会開催：紫友会会長・副会長改選】

平成29年度第一回理事会（平成29年7月1日）において、浜野光年会長辞任に伴い会長・副会長の改選を行いました。本理事会により以下の候補者が承認されました。

会長：高橋 善人（1980年卒）

副会長：藤岡 智子（1988年卒）・山口 隆宏（1994年卒）・永迫 茜（1999年卒）・細野 友美（2002年卒）

浜野前会長・高橋新会長の挨拶の後、平成28年度事業・決算報告が事務局よりなされ、承認されました。次に平成29年度の事業計画・予算案等が審議され、満場一致で承認されました。

活動経過報告

【就活支援セミナー開催】

平成28年12月17日（土）生命化学科3年次学生を対象に就活支援セミナーを開催いたしました。本セミナーは近年、本学科を卒業し、各業種で活躍の紫友会会員の先輩方15名各人を取囲む座談会形式で行われました。

【フレッシュマンセミナー開催】

平成29年4月22日（土）生命化学科新入学生を対象にフレッシュマンセミナーを開催いたしました。本セミナーも同様に、本学科を卒業した先輩方15名をお呼びして、座談会形式で行いました。両セミナーとも学生との双方向的な意見交換の場として盛会のうちに終了しました。

【平成29年度 第24回紫友会奨学生決定】

理事会の同日に奨学生選考委員会より厳正に選考された以下9名の奨学生が決定しました。

2年次：水谷 文香、山口 まどか、谷口 琴音

3年次：加納 結衣、木原 正峰、島田 雪那

4年次：宮田 早織、木下 瑠奈、及川 梨佳子

【平成29年度 第4回紫友会特別賞】

同日に紫友会特別賞選考委員会により厳正に選考された以下2名が、平成29年度第4回紫友会特別賞受賞者として承認されました。

1) 三浦 一輝（博士後期課程3年生）；（受賞理由）平成28年度公益法人ホクト生物科学振興財団研究奨励賞を受賞

2) 大久保 学（博士前期課程2年生）；（受賞理由）平成28年度日本応用糖質科学大会ポスター賞を受賞

生命化学科の近況

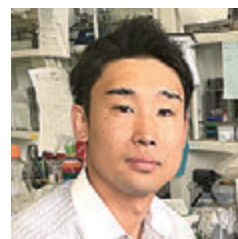
【在校生】

平成28年11月5日に紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が開催されました。栄養生理化学研究室が優勝しました。表彰式・懇親会には紫友会役員の皆様にもご同席いただき懇親を深めることが出来ました。平成29年3月25日に本学部アリーナで平成28年度学位伝達式が開催され、生命化学科卒業生138名が社会へと元気よく羽ばたきました。同年4月から生命化学科1年次学生139名（男子75名、女子64名）を迎え入れ、現在、当学科には計572名（男子304名、女子268名）の学生が在籍しております。

【学科教員動向】

平成28年11月に長谷川功先生（植物栄養生理学研究室）、平成29年2月に春見隆文先生（発酵化学研究室）がご退職されました。長谷川先生は在職27年間、数多くの後進の育成をしていただくと共に、学部執行部役員として長きに亘り学部発展のため、ご尽力していただきました。春見先生は12年間の在職中、多くの後進の育成及び学科主任として学科の繁栄のため、献身していただきま

した。平成29年3月に中谷友美さま（実習助手）がご退職されました。先生方のご健康とご多幸をお祈りいたします。平成29年4月1日付けで野口章先生（植物栄養生理学研究室）、荻原淳先生（発酵化学研究室）が教授へ昇格されました。両先生の益々のご活躍を期待しております。また、同日付けで土屋雄揮助教（環境微生物学研究室）・山口勇将助手（食品化学研究室）、和田彩香実習助手が着任されました。土屋先生は立命館大学を卒業後、同大学院で学位を取得した後、同大学で助手・特任助教としてご活躍されておりました。山口先生は東京農工大学を卒業後、同大学院で博士号を取得し、同大学で特任助教としてご活躍されておりました。先生方の本学部・本学科での益々のご活躍を期待しております。



土屋 雄揮 助教



山口 勇将 助手



和田 彩香 実習助手

紫友会事務局より

今後とも皆様のご支援をお願い申し上げます。紫友会会員の皆様の近況や同期会等のご様子を事務局までお知らせ下さい。紫友会のホームページは<http://www.nihon-u-shiyukai.jp>からご覧いただけます。また、インターネット上で「紫友会」と検索してください。同ウェブ上で連絡先等変更の手続きができますのでご活用ください。

（赤尾 真）

角 笛 会

獣医学科

連絡先：獣医病態生理学研究室
0466-84-3633 事務局長 鯉江 洋
E-mail: koie.hiroshi@nihon-u.ac.jp

平成 29 年度 日本大学獣医学会・ 角笛会合同大会の開催

平成 29 年 6 月 24 日(土)、日本大学生物資源科学部 1 号館 第 121 講義室において平成 29 年度角笛会総会および第 55 回日本大学獣医学会が開催され、多くの会員が集まりました。日本大学獣医学会では永田雅彦担当学会長のもと、口頭発表による 10 題の一般講演、次いで教育講演として「沈黙の臓器、臍臓を知る」と題し、安井禎先生(獣医解剖学研究室)、近藤広孝先生(獣医病理学研究室)、坂井学先生(獣医内科学研究室)、難波信一先生(マール動物医療センター)、関真美子先生(獣医外科学研究室)により行われました。本年度も一般講演と教育講演の時間を大幅に確保したプログラムとなり、会員 53 名、学生・ANMEC 研修医 102 名、その他 10 名と計 165 名が参加し、また会場からの熱心な質問も多く、内容の充実した学会となりました。

角笛会総会では中川秀樹会長より挨拶があり、北澤浩一議長(昭和 54 年卒)の進行で審議が行われました。総会に先立ち、諸先生方のご訃報に際し、黙祷が行われました。平成 28 年度の事業活動および会計収支報告があり、承認されました。また平成 29 年度の事業活動および予算案が審議され、満場一致で承認されました。角笛会の発展に貢献した角笛会功労者として加藤智久氏(栃木県)、大谷健氏(岐阜県)、花井二六氏(大分県)、屋富祖幸榮氏(沖縄県)の 4 人に賞状と記念品が授与されました。また日本大学動物病院の獣医臨床技術の向上と臨床獣医学研究の活性化を目的とした ANMEC 研究助成金は、山崎敦史氏(研究課題：犬の変形性関節症における早期診断マーカー CTX-2 の有用性)が受賞しました。総会后、食堂棟 3 階にて開催された懇親会には大矢祐治学部長、丸山総一学部長、他学科同僚校友会の来賓、角笛会校友、大学教員そして学部生(準会員)など多数の参加者が集まりました。

鳥海弘副会長(昭和 50 年卒)の乾杯の音頭で開幕し、にぎやかに談笑するうちに時間が流れ、盛会裏に終了しました。



第 55 回日本大学獣医学会 教育講演



ANMEC 研究助成金の授与式

平成 29 年度 角笛会主催 獣医師採用病院説明会の開催

平成 29 年 6 月 24 日(土)(平成 29 年度日本大学獣医学会・角笛会合同大会と同日)、日本大学生物資源科学部 1 号館学生ホール、111、112、113 講義室において、角笛会準会員である獣医学科学生のための獣医師採用病院説明会が開催されました。説明会の趣旨・目的に賛同し、ご参加いただいた動物病院は 39 施設で、学生は 215 名(延べ人数)が参加しました。就職活動としては勿論のこと、低学年の動物病院見学や実習などさまざまな情報交換が行われ、動物病院、学生の双方から有意義なイベントとなったと好評を得ました。来年度も開催を予定しておりますので、多くのご参加をお待ちしております。



平成 29 年度角笛会主催
獣医師採用病院説明会の様子

第 15 回日本大学医療系同窓・ 校友学術講演会の開催

第 15 回日本大学医療系同窓・校友(医学部同窓会、歯学部同窓会、松戸歯学部同窓会、薬学部校友会、獣医学科校友会・

角笛会)学術講演会は平成 28 年 9 月 24 日(土)角笛会担当で「教育について」をテーマにシンポジウム形式で開催され、参加者との意見交換が活発に行われました。角笛会からは杉谷博士先生(昭和 47 年卒)が「獣医学教育はグローバル化を目指すか」と題して発表しました。本年度の第 16 回講演会は 10 月 7 日(土)薬学部校友会担当で「国際協力」をテーマで開催されます。角笛会からは富永秀雄氏(昭和 45 年卒)が「農民の心に火を灯す国際協力」と題して発表する予定です。



第15回日本大学医療系同窓・校友学術講演会

人事

本年 3 月をもって佐藤常男教授(獣医病理学研究室)、浅野隆司教授(獣医薬理学研究室)、杉谷博士教授(獣医生化学研究室)、野上貞雄教授(医動物学研究室)、津曲茂久教授(獣医臨床繁殖学研究室)、中西照幸教授(魚病学研究室)、泉對博教授(獣医伝染病学研究室)、湯川真嘉教授(実験動物学研究室)、入江彩香実習助手(学科事務室)、小池未記実習助手(家畜病院)が退職されました。本年 4 月に住吉俊亮専任講師(獣医産業動物臨床学研究室)、近藤広孝専任講師(獣医病理学研究室)、片倉文彦助教(魚病学研究室/比較免疫学研究室)、越後谷裕介助教(実験動物学研究室)、増田絢助手(医動物学研究室)、杉谷博士再雇用教授(獣医生化学研究室)、泉對博再雇用教授(獣医伝染病学研究室)、佐藤常男特任教授(獣医病理学研究室)、津曲茂久特任教授(獣医臨床繁殖学研究室)、中西照幸特任教授(魚病学研究室)、新堀千里実習助手(学科事務室)、田崎成美実習助手(家畜病院)が採用されました。伊藤琢也先生(獣医衛生学研究室)、佐藤雪太先生(実験動物学研究室)が教授に、大滝忠利先生(獣医臨床繁殖学研究室)が准教授に、鈴木由紀先生(獣医衛生学研究室)が専任講師に昇格されました。また、堀北哲也教授が獣医産業動物臨床学研究室から獣医臨床繁殖学研究室に異動いたしました。(岡林 堅)

満喜葉会

動物資源科学科

連絡先：畜産マーケティング研究室
0466-84-3648 事務局長 小泉 聖一
E-mail: koizumi.seiichi@nihon-u.ac.jp

平成29年度満喜葉会 一活動経過報告一

【役員会の開催】

定例の役員会は、本年5月14日（土）午後4時より、2号館2階第1会議室で開催されました。役員会は山本捷会長の挨拶から始まり、平成28年度事業・決算報告が事務局よりなされ承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ承認されました。次に平成29年度の事業計画・予算案が事務局より提案され承認されました。

【スポーツフェスタ、新入生歓迎会の開催】

上記役員会の後、午後5時より本館ガレリア階銀座スエヒロにおいて新入生歓迎会が学科・満喜葉会の協賛、学術研究部の協力のもと行われました。

新入生歓迎会と同日に行われた「スポーツフェスタ2017」は、天候にも恵まれ、昨年同様、全競技がグラウンドで執り行われました。本年も満喜葉会からスポーツフェスタ時に着用するTシャツを全新生、教員に進呈していますが、今年も学科イメージカラー（？）となりつつある「Navy blue」の生地ホルスタインのワンポイントを左胸に貼ったTシャツを、ユニフォームとして着用して健闘しましたが、残念ながら12学科中5位となりました。



新入生歓迎会

学科の近況

【卒業生および新入生】

本年3月25日、140名が動物資源科学科を卒業し、新たに満喜葉会正会員の仲間入りをしました。また、本年度より学科入学定員が130名から136名となりましたが、4月には142名の新入生（準会員）を迎えました。6月1日現在の在籍者は4学年合計で599名となり、定員充足率は1.139倍となっています。本年度の1年生の男女比は、男子58名（40.3%）、女子86名（59.7%：過年度学生を含む）、全学年では男子38.1%、女子61.9%となり、今年度もまた学部内で最も在籍女子学生比率が高い学科となっています（女子学生比率が在籍者の50%を超えているのは当学科以外に獣医学科、食品ビジネス学科、食品生命学科を含め4学科）。

【学科人事について】

平成29年3月末日をもって、甲斐藏先生、丹羽美次先生、小林信一先生が定年のため退職されました。3先生は、それぞれ再雇用教授（甲斐、小林両先生：任期2年）、特任教授（丹羽先生：任期1年）として本年4月より再び任用されています。

本年4月1日付で、草地学研究室の佐伯真魚准教授が教授に、動物組織機能学研究室所属の相澤修助手が助教に昇格されました。また同日付で、（独）家畜改良センター宮崎牧場に勤

務されていた三角浩司先生が准教授として採用されました。現在は動物生殖学研究室に所属し、生命工学等を担当されます。



三角 浩司 准教授

本年度の研究室の配置と所属教員（19名）と特任教授（1名）は以下の通りです。

学科主任（小泉聖一 教授）

動物組織機能学

（山室 裕 教授、園田 豊 専任講師、相澤 修 助教）

伴侶動物学

（甲斐 藏 教授、福澤めぐみ 専任講師）

ミルク科学

（増田哲也 教授、川井 泰 准教授）

動物育種学（長嶺慶隆 教授）

動物生殖学

（大西 彰 教授、三角浩司 准教授）

野生動物学

（村田浩一 教授、岩佐真宏 准教授）

草地学（佐伯真魚 教授）

飼養学

（梶川 博 教授、浅野早苗 助教）

畜産経営学（小林信一 教授）

畜産マーケティング（小泉聖一 教授）

特任教授（丹羽美次）

学科事務室

（須藤千絵 実習助手、神原サキ 実習助手）

（山室 裕）



2017年スポーツフェスタ

いもづる会

食品ビジネス学科

連絡先：食品産業論研究室

0466-84-3420 事務局長 大石 敦志

E-mail: oishi@brs.nihon-u.ac.jp

幹事会(総会)・研究室活動報告会・懇親会を開催

6月3日(土)、エクスカーション・幹事会・研究室活動報告会・懇親会が日本大学生物資源科学部で開催されました。エクスカーションでは、高橋巖先生が案内役となり、新校舎(1号館や2号館)を中心にキャンパス内を巡りました。幹事会では昨年度の活動報告・会計報告と、本年度の活動計画・予算案が承認されるとともに、来年度の「70周年記念事業」の持ち方や在校生の就職活動に対する支援強化のための就職懇談会などの各種支援を行うことなどが決められました。

一昨年度から取り組んでいる「研究室活動報告会」も3年目。今年は食品企業分析論研究室(齋藤ゼミ)、地域環境経済学研究室(清水みゆきゼミ)、国際フードシステム研究室(下渡ゼミ)の3つの研究部の所属学生たちが、様々なゼミ活動や研究活動などを、スライドを使い、緊張した面持ちながら、真剣で内容のある報告をしていました。懇親会では、会員、教員、学生幹事、研究室活動報告をした学生準会員の約70名で、本学科の学術研究会(Highers☆)の学生たちの料理にも舌鼓を打ちながら、和やかに行われました。

食品ビジネス学科の近況

【新入生】

3月25日に156名の学生が卒業し、本年度は143名の新入生を迎えました。



懇親会



懇親会：学術研究会(Highers☆)による料理提供

4月22日には新入生研修会を開催し、上級生から食品ビジネス学科の魅力や講義の受け方のプレゼンのほか、ゼミ対抗クイズ等のイベントもあり、学生間での親睦を深めました。5月15日には学部主催のスポーツフェスタが開催されました。新入生は、投票で一位になったデザインの揃いのTシャツを着て、学科一丸となって奮闘し、綱引きや大縄飛びで1位にな



新入生研修会



スポーツフェスタ

るなどそれぞれの種目で好成績を収めました。結果は惜しくも総合3位でしたが、新入生間の結束力がより一層高まった良い一日となりました。

【教職員の動き】

本年4月から友田滋夫先生(地域食品企業論研究室)と荻島和泉さん(学科事務室)が着任されました。友田先生は、本年度は1～3年ゼミの他、「消費者行政」を担当されます。荻島さんは保育士の経験を活



スポーツフェスタ

かし、学科内をより華やかに飾ってくれています。

【来年は70周年】

来年度はいもづる会創立70周年になります。現在実行委員会を立ち上げて、様々な記念企画を考えております。詳細はHPやFacebookにて適宜お伝えしていきます。多くの卒業生の参加をお待ちしております。

【会員への各種案内方法の変更(お願い)】

近年のネット環境の充実やライフスタイルの変化に鑑み、会報や各種案内の従来の紙媒体での案内方法から、ホームページ等のネット媒体での案内方法に順次移行させていただいております。

昨年と同様、次の2つのコネクション方法がございます。ホームページやFacebookをチェックしていただくとともに、Facebookの友達の申請をお願いいたします。また、住所変更、幹事会や懇親会等の参加申込みなどを受け付けておりますので、多くの会員の皆様にご利用いただければ幸いです。

(1) いもづる会ホームページ

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~imozuru/>

「いもづる会」で検索



(2) いもづる会 Facebook (いもづる会 校友会)

<https://www.facebook.com/imozurukai/>

Facebookで友達申請をしてください。

(大石 敦志)

あすなろ会

森林資源科学科

連絡先：森林植物・微生物学研究室
0466-84-3666 事務局長 鍛代 邦夫
E-mail: kitai@brs.nihon-u.ac.jp

平成 28 年度あすなろ会 活動報告

【総会】

平成 28 年 9 月 17 日（金曜日）、3 年に 1 度の総会を湘南キャンパス 10 号館において開催し、平成 27 年度の事業・決算・監査報告及び平成 28 年度事業計画・予算案が承認されました。また、役員任期は 3 年であるため、同年 8 月 6 日に行われた理事会で次期役員人事が議論され、現役員体制の継続が提案されました。本総会でもこの人事案が承認されました。総会出席者は 48 名でした。

【同窓会】

平成 28 年 9 月 24 日（土曜日）に第 60 期の卒業生による同窓会が藤沢キャンパスにおいて開催されました。この期の卒業式は平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災の影響で中止になってしまいました。卒業後 5 年が経ち、卒業生 46 名と学科教職員、また当時担任だった桜井尚武先生が参加されました。皆様、楽しい、懐かしいひと時を過ごされた様子でした。平成 29 年 6 月 17 日（土曜日）には第 20 期の卒業後をはじめの同窓会が藤沢キャンパスで開催されました。参加者は 15 名で、47 年ぶりに再会された方々も多く、皆様とても懐かしかったことと思います。16 期、23 期の卒業生も同窓会を開催されています。

同窓会の開催に当たってはあすなろ会より補助金を提供する規定がございますので、ご一報いただければ幸いです。

学科への支援事業

【卒業生による職業研究会】

森林・林業関連の仕事に従事している卒業生にお集まりいただき、これから就職活動を迎える 3 年生を対象に仕事内容や就職活動の経験談等のお話をしてもらう「森林資源科学科卒業生による職業研究会」を学科と協力して開催いたしました。平成 28 年度は 11 月 9 日に開催し、林業・住宅・建材・造園・建設系コンサルタンツ・環境系コンサルタンツ・IT 関連企業、公園管理運営団体、

公務員等、多くの分野で活躍している卒業生 27 名に集まっていただきました。学生が自分の希望に合った就職先を見つけるのは容易ではありません。この職業研究会では卒業生が務めている企業・団体や業界の生きた情報が得られるため、大変有意義です。参加した学生の中には卒業生が務めている会社に就職を決めた者も数多くいます。ご参加いただいた卒業生の皆さま、ありがとうございました。

【卒業生・新入生への支援】

例年と同じく、本年 3 月 25 日に行われた卒業式において、各研究室で最も成績の優秀な卒業生 9 名に「あすなろ会会長賞」を授与しました。平成 28 年度は 141 名（男子 97 名、女子 44 名）が卒業し、第 66 期生となりました。4 月には 135 名（男子 96 名、女子 39 名）の新入生を迎え新学期が始まりました。新入生と卒業生にはあすなろ会から記念品を贈呈しました。



卒業式でのあすなろ会会長賞授与の様子

学科の近況

【新入生の軽井沢実習】

毎年、新緑の 6 月初旬に 1 年生全員参加による森林資源科学実習を長野県軽井沢町の日本大学セミナーハウスと周辺の森林で実施しています。本年は 6 月 9 日～11 日にかけて実施し、樹木観察・自然観察・各研究室が企画するテーマ別実習、及び 30 種類の樹木の葉を見て樹木名を解答する樹木博士（試験）等を行いました。森林の中で行う初めての实習で、新入生たちには森林の魅力を感じてもらえたと思います。新入生全員と教職員、

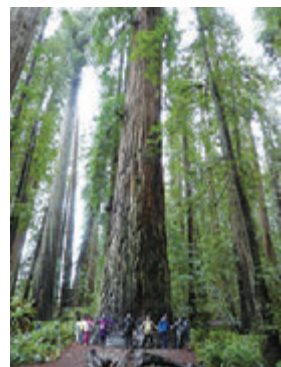


新入生の軽井沢実習

実習補助の大学院生や学部上級生も多数参加する実習なので、コミュニケーションの輪も大きく広がりました。この実習に掛かる補助学生の経費はあすなろ会で補助しています。

【アメリカ実習】

平成 29 年 3 月 2 日～11 日に、アメリカ西海岸の森林地帯を対象とする実習を行いました。参加者は 2 年生 17 名と引率教員 3 名です。最初の訪問地はワシントン州シアトル市にあるワシントン州立大学の森林資源学科です。大学では「アメリカの森林・林業」についての講義を受け、演習林で西海岸の植生や森林施業、生態系保全について実習しました。次に、オレゴン州にあるアメリカ森林局北西部森林研究所のアンドリュース試験地を訪問し、ダグラスファーの原生林の見学とその森林生態系内で起こっている炭素循環や水循環の研究をはじめ、最先端の研究について学びました。この他にも、温帯雨林が生育するオリンピック国立公園、火山噴火で生態系が破壊されたセントヘレンズ山、カリフォルニア州の巨木が生育するレッドウッド国立・州立公園の見学等を行いました。日本では見られない雄大な自然と森林の中で、新たな勉学への興味と意欲を持ってくれたと思います。



アメリカ実習
樹高 100 m の森林

【就職状況】

本年度の学科の就職率は 95.7% でこれまでで一番高い値になりました。林野庁に 2 名、県の森林・林業職に 6 名が合格しました。森林・林業職に関連する林業・緑化・造園、木材流通、砂防・治山関連の建設系コンサルタンツ等々の企業に多くの卒業生が就きました。

【学科の人事】

森林経営学研究室の増谷利博先生が平成 29 年 3 月末に定年で退職されました。平成 7 年本学に就任され、森林計画学、森林統計学等の科目を担当していただき、多くの学生を育てていただきました。

（阿部 和時）

桜水会

海洋生物資源科学科

連絡先：海洋生物生理学研究室

0466-84-3677 事務局長 森 司

E-mail: mori.tsukasa@nihon-u.ac.jp

平成 29 年度桜水会総会・懇親会を開催

平成 29 年 6 月 10 日(土) 14:30 より湘南キャンパス 10 号館において「平成 29 年度桜水会総会・代議員会・理事会」が、16:00 より食堂棟 3 階 NUBS ホールにおいて「10 年毎の同窓会・懇親会」が開催されました。「総会・代議員会・理事会」では、平成 28 年度の事業報告、決算報告、監査報告、平成 29 年度の事業計画案、予算案などが審議され、すべて承認されました。同時に、役員改選が実施され、橋ヶ迫会長が再選されました。また、これまでの 1 年間事務局長を務められた朝比奈潔教授が学科主任に着任したため、その後任に森司教授(任期 2 年間)が就任しました。さらに、今後、2021 年 3 月末までに会報をオンライン化していくことが提案され、承認されました。総会・代議員会・理事会に引き続き、兵田千秋氏(18 期)により「アカウミガメの保護観察調査について(豊橋市表浜海岸)」との演題で講演会が開催されました。

「10 年毎の同窓会・懇親会」は、卒業後 2 年目(平成 27 年卒、64 期)、10 年目(同 19 年卒、56 期)、20 年目(同 8 年卒、46 期)、30 年目(昭和 62 年卒、36 期)、40 年目(同 52 年卒、26 期)ならびに 70 歳以上の卒業生会員を中心に、学科教員および準会員である在生学生も数十名参加して実施されました。

学科・準会員への支援

今年度の前期には、「海洋生物資源科学概論」(1 年次必修科目)の中で、将来就いてみたい職業を見出す職業研究の一環として、活躍する本学科卒業生の体験

談などを講演していただきました。6 月 27 日に長谷川勝治氏(20 期、元焼津水産高校校長)、7 月 11 日に小橋史明氏(62 期、ベニレイ(株))と加藤聖也氏(64 期、丸千代田水産(株))、7 月 18 日に増田真之介氏(64 期、新潟県立海洋高等学校)と加登岡大希氏(60 期、新江ノ島水族館)の計 5 名の卒業生に演者としてお越しいただきました。また、「特別講義」(3 年次選択科目)では、本学科海洋生物資源応用コース(JABEE 対応コース)の外部評価委員に委嘱されている尾崎之紀氏(37 期、味の兵藤(株))、市橋 理氏(37 期、アジア航測(株))、宮下一明氏(38 期、(株)東京久栄)および長谷川勝治氏(20 期、元焼津水産高校校長)の 4 名の会員に、技術者教育の一環として講演していただきました。このほか、1 年次の必修科目である「海洋基礎実習 I」への支援、スポーツフェスタの学科 T シャツ作製、学科広報用パンフレットの作成を支援しました。今後、今年度中に在生学生の学会参加費等の補助や卒業記念品の贈呈、卒論コンペ(塚本賞)の支援等を実施する予定です。

海洋生物資源科学科の近況

【新入生・在学生】

本年 4 月に 145 名(男子 99 名、女子 46 名)の新入生を迎え、現在 606 名(男子 416 名、女子 190 名)の学部生が在



鵜沼海岸でのオリエンテーション時の集合写真



下田臨海実験所での海洋基礎実習 I の一コマ



スポーツフェスタ時の集合写真

籍しています。また、4 専攻に跨る大学院には、博士前期課程 26 名(男子 22 名、女子 4 名)、および博士後期課程 4 名(男子 3 名、女子 1 名)が在籍しています。現在の本学科カリキュラムも 4 年目を迎え、運用面でも軌道に乗りつつあります。4 月 22 日(土)に新入生オリエンテーション(「海洋基礎実習 I」の一部)として、鵜沼海岸で地曳網を行い、その後、新江ノ島水族館を見学しました。5～6 月に下田臨海実験所で海洋基礎実習 I を実施し、本学科の基礎を体験しました。また、5 月 15 日に開催されたスポーツフェスタでは、見事準優勝しました。

【学科教員の異動】

本年 3 月末をもって、これまで平成 7 年から 22 年間勤務されていた宮内浩二専任講師が一身上の都合により退任されました。また、本年 4 月より小糸智子助教、牧口祐也助教および井上菜穂子助教の 3 名が専任講師に昇格されました。

桜水会事務局より

桜水会会員の皆様の近況や同期会等の活動の様子を事務局までお知らせください。桜水会のホームページ(HP)は、海洋生物資源科学科 HP (http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kaiyo/wp/o-sui_description/) 内に併設されております。同ウェブ上で連絡先等の変更手続きができますのでご活用ください。桜水会では、今後、会報を原則オンライン化していくことが総会・代議員会・理事会で承認されたことを受け、総会の開催通知および会報の発送時に申し込みいただくことになりました(2021 年 3 月末締切)。また、今後、ハガキの送付からメール等の送付に移行するため、メールアドレスの登録をお願い致します。詳細は、桜水会 HP をご覧ください。

(糸井 史朗)

工 学 会

生物環境工学科

連絡先：地域環境保全学研究室
0466-84-3836 笹田 勝寛
E-mail: sasada.katsuhiko@nihon-u.ac.jp

会員の動向

正会員数は、平成28年度卒業生152名を加え、平成29年3月現在7402名となりました。現役学生である準会員は、1年生144名(男118・女26)、2年生153名(男121・女32)、3年生162名(男128・女34)、4年生144名(男104・女40)で、合計603名(男471・女132)となっています。したがって、現役学生の男女比はほぼ4:1という状況で、やや女子学生の割合が減りました。

平成28年度総会 および交流会の開催

平成28年11月19日(土)、平成28年度総会が生物資源科学部新2号館11講義室にて行われました。総会では27年度事業報告および決算報告、28年度事業計画および予算案が承認されました。工学会の会計年度は10月から翌年の9月となっていることから、毎年この時期の開催となっています。

その後、午後4時より食堂棟2階教員食堂に会場を移し、学科教員10名と会員35名の参加者を集め、交流会を開催しました。例年行っている懇親会とは趣を変え、会場を小さくしたこともあり、学科から工学会に期待することや校友組織である工学会と学科の共同記念事業などについても積極的な意見交換がなされました。



総会後の交流会の様子

準会員の支援

工学会では、準会員である現役学生の支援として、卒業記念品(ゴム印付きボールペン)の贈呈、卒業記念パーティ(謝恩会)開催に対する補助と、

そこでの卒業生表彰(工学会長賞)を行っています。謝恩会は平成29年3月23日にヨコハマ グランド インターコンチネンタルホテルで開催され、大越輝くん、織田大原冬希くん、山中美穂さんの3名が表彰を受けました。さらに、2年生に対しては必修化された測量学実習Iで着用する実習服代金の一部補助も行っております。



工学会長賞受賞者と酒川会長

学科教員の動向

平成29年度の人事として、大学の雇用規定の変更もあり、平成28年度まで学科主任を務められた糸長浩司教授が定年により特任教授に職位替えとなりましたが、担当講義、研究室などはほぼこれまでと同様となります。これに伴い、環境土木施設工学研究室内の川本治教授が新たに学科主任に選任されました。昇格人事として、建築・地域共生デザイン研究室内の栗原伸治先生が教授に昇格されました。新任人事として、生物生産システム研究室に梅田大樹専任講師が着任しました。梅田専任講師は平成13年に本学部生物環境工学科を卒業され、九州大学にて博士前期課程を平成15年に修了、東京農工大学大学院にて博士後期課程を平成19年に修了、博士号を取得されました。その後、ポスドクター1年、民間企業勤務6年、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(通称、農研機構)に平成26年より3年勤務ののち本学科にお迎えすることになりました。学科の卒業生でもあり学生の性質なども理解されていることから、学生に対する指導と研究などでの活躍が期待されます。また、学科事務室には江橋沙稀実習助手、中嶋綾香実習助手の2名が配属されました。これにより、学科全体では、教員19名(教授7名、特任教授1名、准教

授5名、専任講師4名、助教1名、助手1名)、実習助手2名、合計21名の布陣で教育研究活動にあたっております。



梅田 大樹 専任講師



江橋 沙稀 実習助手



中嶋 綾香 実習助手

スポーツフェスタ

学部スポーツフェスタ(運動会)が5月15日に開催され、当学科の1年生は晴天の中、奮闘してくれました。学科対抗競技では思うように上位とはいきませんでしたが、工学会からの支援によるTシャツを着用し競技に汗を流すことで同朋意識を高めるよい機会になりました。



スポーツフェスタの一コマ

フレッシュマンセミナー

新入生が学科の学習にスムーズに入れるよう、週替わりで研究室が担当する講話や学外での研修活動を1年前期に行っています。平成29年の学外研修では、6月24日に東京都の臨海部、お台場にある水の科学館・虹の下水道館・日本未来科学館を見学してきました。水の利用と処理、未来の科学技術について知識を広める良い機会となったようです。



1年生の学外研修の一コマ
(下水道館の見学)

(笹田 勝寛)

FT会

食品生命学科

連絡先：食品生命工学研究室
0466-84-3979 事務局長 陶 慧
E-mail: tao.kei@nihon-u.ac.jp

FT会活動報告

【FT会理事会および総会の開催】

FT会理事会が平成29年4月8日に、総会は平成29年6月10日に本学湘南キャンパスにおいて開催されました。総会では平成28年度事業報告および会計収支決算が承認されました。さらに、平成29年度事業計画案および会計収支予算についても承認されました。なお、平成29年度は、能登屋(5期)、千野(11期)、廣川(14期)と大井(15期)さんを副会長として新たに加え、副会長7名および陶(23期)先生を新事務局長とした新体制で活動します。



5期同期会

【準会員(在学生)への活動】

FT会では、準会員の活動援助として、4年生へは、研究室対抗スポーツ大会懇親会の補助と卒業記念品の贈呈を行いました。4年生へ授与するFT会長賞には、尾島光弘さんと及川清子さんが受賞されました。1年生へは、学部スポーツフェスタでの飲料を提供しました。なお、スポーツフェスタは、総合優勝という輝かしい成績でした。また、全学生に対して資格試験受験料の補助も例年どおり実施しました。最後に、学科の教育研究活動に使用するプロジェクターを寄贈しました。



スポーツフェスタ優勝

学科の近況

【学科人事】

平成28年度に食品生命学科では、以下の人事が行われました。

○新任

大畑素子 専任講師(食品栄養学研究室、お茶の水女子大学出身)、井上 梢 実習助手(学科事務室、52期生)

○退職

小田宗宏(食品創成科学研究室)、千野 誠(食品分析学研究室、FT会事務局長、11期)、石神 徹(食品生命工学研究室)、光野亜希(学科事務室、FT会事務局員、47期)

千野先生は、本学科卒業生で初めて教員となり、学科の教育研究に尽力され、FT会でも事務局長として活躍されました。今年度から副会長として、校友会をバックアップされます。石神先生は、平成29年度から広島大学へ移動されました。多くの学生から慕われた先生でしたので、残念ですが、ますますのご活躍を祈念いたします。また、光野さんは、本学科を卒業された後、実習助手として学科の教育研究だけでなく、FT会の事務局員として貢献され、学生から多大な信頼がありました。退職された方のご健康と今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

○昇格

松藤 寛(食品分析学研究室) 先生が平成29年4月1日に教授に昇格されました。今後、ますますのご活躍が期待されます。

事務局より

FT会のホームページ(<http://ftkai.net/>)では、各種イベント情報の閲覧や各種変更届ができます。また、FT会では、同窓会・同期会の開催に際し、一部援助もしております。ご不明な点は、ホームページからお問い合わせください。

(阿部 申)



卒業式

拓友会

国際地域開発学科

連絡先：熱帯資源作物研究室

0466-84-3468 事務局長 倉内 伸幸

E-mail: kurauchi@brs.nihon-u.ac.jp

平成 29 年度幹事会および 総会の報告

平成 29 年 1 月 28 日に平成 29 年度拓友会幹事会および総会が開催されました。第 1 号議案として、平成 28 年度活動報告ならびに決算報告、第 2 号議案として、平成 29 年度事業計画案ならびに予算案、第 3 号議案として、70 周年記念事業案、第 4 号議案として、会則改正案、第 5 号議案として役員改選案の件が審議され、事務局提出案が承認されました。

学科80周年・拓友会70周年記念 懇親会の開催

平成 29 年 3 月 4 日、日本大学生物資源科学部食堂棟 3 階にて学科 80 周年・拓友会 70 周年記念懇親会を開催致しました。内田会長からは、「母校への帰属意識の醸成」について、倉内学科主任からは、「学生教育の現状と学科の方向性」について校友への挨拶がなされました。校友 120 名以上、在学生 50 名以上、来賓 20 名が集まり盛会な懇親会となりました。



挨拶をする内田会長

平成 28 年度拓友賞授与

平成 28 年度の拓友賞は、伊藤慧さん、畑中直也さんの 2 名が国際地域開発学科より推薦され、平成 29 年 3 月 25 日に実施された卒業証書伝達式の席上、内田会長より表彰状ならびに副賞が授与されました。

国際地域開発学科 学位記等授与・伝達



伊藤 慧さん、内田会長、畑中 直也さん

平成 29 年度 学科海外研修旅行開催

学科主催の海外研修旅行は、8 月から 9 月にかけてボリビア国コース 8 名（溝辺先生、菊地先生）、ミャンマー国コース 6 名（山下先生、佐々木大先生）、ラオス国コース 10 名（園江先生、細澤実習助手）が開催されました。

卒業者の進路状況について

平成 28 年度卒業者の進路状況は、就職 129 名、進学 5 名、その他 11 名、就活中 1 名となり、就職希望者（130 名）に対する就職率は 99.2%となりました。

青年海外協力隊派遣状況

昨年セネガルから帰国し、本学大学院在学中の斉藤雄介君が、本学部が青年海外協力隊事務局と交わした大学連携の 1 号としてウガンダに昨年 12 月より派遣されています。続いて、7 月から本学大学院在学中の部大輝君が派遣されました。

【派遣中】

平成 25 年卒

斉藤雄介（ウガンダ：稲作）

平成 26 年卒

重吉倫太郎（フィジー：野菜栽培）

平成 27 年卒

部 大輝（ウガンダ：農林統計）

【帰国】

平成 27 年卒

加藤 遼（ルワンダ：野菜栽培）

宮川継右（フィリピン：野菜栽培）

2 名の OB が 2 年間の活動を終えて帰国しました。今後の活躍を期待します。

教員の動向

平成 29 年 4 月 1 日付で溝辺哲男先生が教授に、園江満先生、山下哲平先生が専任講師に昇格されました。おめでとうございます。また、国際協力研究室に福田聖子先生が助教として、国際環境保全学研究室に佐々木綾子先生が助教として、熱帯資源作物研究室に佐々木大先生が助手として、田近真有さんが実習助手として採用されました。今後のご活躍をお祈りいたします。



福田 聖子 助教



佐々木 綾子 助教



佐々木 大 助手



田近 真有 実習助手

在校生の近況

平成29年7月1日現在、1年生 139名（男子91名・女子48名）、2年生142名（男子100名・女子42名）、3年生155名（男子108名・女子47名）、4年生172名（男子109名・女子63名）の合計608名（男子408名・女子200名）が在籍しています。（山下 哲平）

訃報

2017 年 6 月 6 日、時田邦浩教授（国際協力研究室）がご逝去されました。先生は JICA（国際協力機構）との連携を中心に、学科の発展にご尽力いただきました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



フィリピン研修時、学生と夕食会を楽しむ時田先生

応用生物科学科校友会

応用生物科学科

連絡先：生体分子学研究室
0466-84-3353 事務局長 明石 智義
E-mail: akashi.tomoyoshi@nihon-u.ac.jp

学科の近況

【学科設立 30 年】

応用生物科学科は昭和 62 年 12 月に設置され（昭和 63 年 4 月から学生が入学）、本年度は学科設置から 30 年にあたります。これまでに 4,000 人を超える人材を輩出し、卒業生は各界で活躍されています。設置当初は 6 研究室で構成されていましたが、教員の異動やライフサイエンス分野の目覚ましい進展に伴い、現在は 8 研究室体制となっています。

平成 29 年 4 月には、核酸・蛋白質科学研究室の新井直人先生が准教授に昇格されました。また食品科学工学科（現食品生命学科）出身で、東京医科歯科大学難治疾患研究所に勤務されていた中西祐輔先生が助教として採用されました。両先生には今後さらなるご自身の研究の発展に加え、学生の教育へのお力添えをお願い致します。



中西 祐輔 助教

現在の研究室の体制は以下の通りです。

核酸・蛋白質科学研究室

（司馬肇教授、舩廣善和准教授、新井直人准教授）

生命工学研究室

（上田賢志教授、高野英晃准教授、西山辰也助手）

分子微生物学研究室

（砂入道夫教授、岩淵範之准教授）

植物細胞学研究室

（内山寛教授、土屋徳司専任講師）

生体分子学研究室

（青木俊夫教授、明石智義准教授）

動物生体機構学研究室

（加野浩一郎教授、沖嘉尚助教）

細胞機能調節学研究室

（花澤重正教授、苦名充准教授）

分子免疫生物学研究室

（高橋恭子准教授、中西祐輔助教）

学科事務局

（太田早紀実習助手、吉田麻友実習助手）

【在学生と卒業生】

応用生物科学科の在籍学生数は 567 名、学年別では 1 年生 131 名（男 85 名、女 46 名）、2 年生 136 名（男 74 名、女 62 名）、3 年生 143 名（男 71 名、女 72 名）、4 年生 157 名（男 90 名、女 67 名）となっています。昨年度は 124 名の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。卒業生のご活躍を期待します。

【ABS 講演会】

応用生物科学科では、教職員及び学生が自由な雰囲気での議論、意見交換をするため ABS Evening Lecture を開催しています。これまでに新任の土屋徳司専任講師、高橋恭子准教授にご自身の研究を紹介して頂いていますが、平成 29 年 2 月には西山辰也助手に「触媒として働く抗生物質の発見」というタイトルで発表して頂きました。学部学生及び大学院生が多数参加し盛況でした。

学科への支援事業

応用生物科学科校友会では準会員へ向けて、新入生歓迎会、スポーツフェスタ、オープンキャンパス、卒業記念品などの支援を行っています。

平成 29 年 4 月に、新入生の相互交流や教職員とのコミュニケーションを図る目的で、新入生歓迎会を行いました。学科の教職員と 100 名以上の新入生が参加しました。皆、楽しく懇談し親睦を深めていました。ボランティアの 4 年生や大学院生も参加し、講義や学生実験、さらに研究室の様子などを紹介していました。同じく 5 月にはスポーツフェスタが開催され、学生、教員ともに統一された T-シャツを

着て競技や応援を行いました。

本年度もオープンキャンパスが開催されました。6 月には青木俊夫教授による模擬講義が行われました（ノーブラント・ノーライフ 君らはいつもそこにいる）。研究室の展示では、学生、大学院生、教員が研究内容をわかりやすく紹介し、さらに模擬実験等も開催されたいへん好評でした。



スポーツフェスタ



新入生歓迎会



オープンキャンパス進学相談



オープンキャンパス模擬講義

事務局より

事務局では会員の皆様からのご意見、ご要望、ご提案をお待ち致しています。ご一報下さいますよう、お願い致します。（明石 智義）

支部だより

宮城県支部の近況

連絡先 〒981-3217 仙台市泉区実沢字桐ヶ崎屋敷15番地
事務局長 櫻田 昇 支部長 鎌田 雅敬
TEL.022-379-2689 FAX.022-379-2689
E-mail : noboru.s@arion.ocn.ne.jp

■ 4.22 (土) 平成 29 年度研修会・
総会・懇親会



横川副会長・ご来賓。出席者との記念写真

■ 研修会：鎌田幹事長より“日本酒”
について・普通酒・本醸造酒・純米酒・
吟醸酒を試飲し“清酒の造り方、酒
母の役割と種類、清酒の分類”等を
伺いました。来年は、パート2。

■ 新・支部長就任ご挨拶

かまた まさゆき
鎌田雅敬：紫友会(S52)
発足 14 年を迎え一層
校友会活動の充実に
努めて参ります。



■ 7.8 (土) 学部校友会総会及び懇
親会場で、前支部長小野隆：F T 会
(S41) 平成 28 年秋叙勲旭日小授章
に記念品を授与いただきました。母
校のご配慮に御礼申し上げます。



内田会長より記念品授与いただきました



表彰に謝辞、内田会長叙勲祝賀会出席に御礼

■今後の予定

- * 9.2 (土) 屋上ビアホールで残暑払
- * 役員会 * 延期した仙山交流会開催
- * 12.26 (火) 役員会・幹事会・忘年会

山形県支部の近況

連絡先 〒990-2433 山形市鳥居ヶ丘 4-55
日本大学山形高等学校 小嶋 佑治
TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634
E-mail : kozima.yuji@nihon-u.ac.jp

山形県支部総会・懇親会を平成 29
年 2 月 18 日「パレスグランドール」
にて開催し、県内に幅広くいる会員
以外に、多数の来賓方々にもご臨席
いただきました。総会終了後、記念
講演会に移り講師に本学部教授井上
公基先生を迎え「森林の役割と脅威」
と題して講演をいただき、大変興味
深い内容に、参加者一同学生時代に
戻ったかのように聞き入りました。ま
た、本学部校友会幹事 東郷聖史氏よ
り「大学・校友会の近況について」お
話をいただきました。その後懇親会
に移り、美味しい料理とお酒をいた
だきながら、さらに親交を深める会
を開くことができました。本県の日本
大学校友会は学部ごとに校友会支部
があり、法学・文理・経済・商・芸術・
国際関係・工科系(理工、生産、工)・医
歯(歯、松戸歯)・生物資源・薬・通
信教育の 12 支部、そして桜師会がそ
れぞれ総会を開き活動をしています。
加えて毎年 7 月上旬に日本大学校友
会山形県支部総会があり、会員相互
の親睦を深めています。

(山形県支部 事務局長 齊藤 広樹)



井上公基教授の記念講演



山形県支部 第25回総会

高知県支部の近況

連絡先 〒785-0610 高知県高岡郡梶原町梶原 1173-2
高知県支部事務局 來米 豊史
TEL.0889-65-0818
E-mail : kurume@flute.ocn.ne.jp

今年も宮尾登美子原作「陽暉楼」
の舞台となりました料亭得月楼で第
29 回高知県支部総会を開催しまし
た。総会には会員 20 名、内会員の
ご子息で来年日大を受験予定の高校
生 1 名、そして来賓に校友会会長内
田俊太郎理事にご臨席頂き、ご挨拶、
及び支部活動費の授与を頂きました。

総会では、前川高知県支部長が代
表をしている株式会社高知前川種苗
での仕事内容、業界での現状の問題
など、特に外国産の遺伝子組み換え
農作物ではこぼれ種と言われる外来
種による在来種への影響などの話を
され、そして時間となり懇親会へと
移っていきました。

懇親会では和気あいあいと色々な
お話しで盛り上がり、その中でよさ
こい祭りの話題になったのですが、日
大チームも日本大学県人会の名前で
出場したことがあり、当時、チームの
中心となった OB 達とも記憶をたどり
ながらあれから約 30 年と言う話題に
なりました。当時のことを調べてみる
と S60 年から H3 年まで平成元年を
除き 6 回の出場をしていました。日
大チームはピンクの日大ロゴの入った
ハッピーで、先頭に羽織袴に角帽高下
駄で日大の旗を応援団の団旗のように
持ち、バンカラ風に進み後を踊り子
隊がついて行くと言うスタイルでした。

よさこい祭りは今や全国区で有名
になり今なおその輪を広げつつある
祭りですが、高知では 8 月の 9,10,11
日に開催されました。

出場チームにはいくつかのルール
があり、まず地方車と呼ばれる音響
とチーム名をつけた車が先導するこ
と、鳴子を持って前進していく踊り
であること、音楽によさこい節を入れる
こと、チーム人数は 150 人以下であ
ること、このルールを守れば後は音楽
のアレンジ、踊りの振り付け、衣装な
どは自由で、人気チームには県外から
の参加も多いというリオのカーニバル

にも似た熱気のあるお祭りです。

日大の関係では 日本大学工学部桜家一門 YOSAKORI 隊 というチームが今年も参加されていました。

高知県内チームの出場が終わったのは一つには費用の問題、チームを作るには、地方車、踊りの振り付け、音楽の制作、衣装代など多額の経費がかかり費用のほとんどを OB、関係者の寄付でまかなうには限界が来たこと、もう一つの大きな問題は参加して中心になる在学生、OBがいなくなったことでした。

OBの一人としても何とかよさこい祭りで日大チームが復活してくれればいいと思うのですが、いっそのこと全国の日大生、土佐でよさこい踊ろうや！と呼びかけて高知に来る機会も持ってもらったら、などと考えたりもします。

いずれにしても日大を目指す青年達が増えてくれることを願っています。

などと話しております間にも前回ご紹介したべろべろの神様はあちこちに降臨されて、日大応援部 OB の岡林寿男様による校歌及び応援エールで締めとなり、前川支部長達もまだまだ暑い晩夏の夜に吸い込まれ土佐の夜はふけていきました。



内田俊太郎会長と高知県支部会員



得月楼



懇親会風景



日大踊り子隊のハッピー姿



背中には日大のロゴ



子供達も参加していました

(高知県支部 事務局長 来米 豊史)

神奈川県支部の近況

連絡先
〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866
日本大学生物資源科学部 動物資源科学科 ミルク科学研究室(6号館4階)
TEL : 0466-84-3662 (増田)
E-mail : t-masuda@brs.nihon-u.ac.jp

本年 4 月より事務局長と支部会の連絡先を変更いたしました。

当支部会の今年度の収穫実績は、ジャガイモが約 197kg (例年に比べ小粒である) とタマネギが約 167kg (例年に比べ大粒の出来ばえ) そして蜂蜜

が約 18kg (例年に比べ低調である) でした。

当会は、昭和 53 年 9 月制定の「日本大学校友会神奈川県支部 (農獣医学部) 生物資源科学部会」(佐々木博康初代会長) の流れを汲んでいます。

今年で 10 年目を迎え、学部農場内の畑で、農産物生産の喜びを共有できる校友会を目指して、家庭菜園でナス・ミニトマト・ピーマン・カボチャ・エダマメ・モロヘイヤ・ハウレンソウなどを継続して栽培しており、ソバ (約 180 坪) は 8 月下旬に播種し、11 月下旬収穫後、12 月に入りソバ打ちを実施しています。現在まで作付け計画から技術指導まで、鈴木明夫先生の全面的な協力を得て維持することができました。10 年前から小牧弘支部長 (5 代目: 元動物資源科学科教授) が飼育しているミツバチからの蜂蜜は、100% 純粋品質 (ブランド名は「湘南の百花蜜」) と相俟って数が限定されているため人気を博しています。

現在は、毎週土曜日 10 時から約 2 時間強の畑仕事を空気の良い六会の大学農場で実施、その後お茶会を開催しています。少しでも体を動かしたい方は、ふるってご参加ください。



タマネギの作付け



モロヘイヤの収穫

(事務局長 稗貫 峻)



日本大学生物資源科学部校友会会則

第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は、日本大学生物資源科学部校友会と称する。

(所在地)

第2条 本会の事務局は、神奈川県藤沢市亀井野 1866 日本大学生物資源科学部に置く。

(目的)

第3条 本会は、日本大学校友会の生物資源科学部会として、会員相互の親睦を図り、日本大学の興隆発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 会員相互の交流
- (2) 会報の発行
- (3) 準会員への支援
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な事業

(分会)

第5条 本会は、分会をもって構成する。
2 分会とは、第8条に定める会員が学科毎に構成する校友会組織をいう。

(準分会)

第6条 学部あるいは学科の統廃合等により分会ではなくなった校友会組織を準分会という。

(支部)

第7条 本会は、支部を置くことができる。
2 支部に関する規定は、別に定める。

第2章 会 員

(会員資格)

第8条 本会は、次の各号に掲げる者をもって会員とする。

(1) 正会員

- ア 東京獣医学校、東京高等獣医学校、東京獣医畜産専門学校及び東京獣医畜産大学の卒業生
- イ 日本大学法文学部専門部拓殖科の卒業生
- ウ 日本大学農学部専門部農業経済科の卒業生
- エ 日本大学農学部予科の卒業生
- オ 日本大学農学部農学科、農業経済学科、畜産学科、林学科及び水産学科の卒業生
- カ 日本大学農獣医学部農学科、農芸化学科、獣医学科、畜産学科、農業経済学科、林学科、水産学科、農業工学科、食品製造工学科、拓植学科及び応用生物科学科の卒業生
- キ 日本大学農獣医学部食品工学科の卒業生
- ク 日本大学生物資源科学部植物資源科学科、農芸化学科、獣医学科、動物資源科学科、食品経済学科、森林資源科学科、海洋生物資源科学科、生物環境工学科、食品科学工学科、国際地域開発学科及び応用生物科学科の卒業生
- ケ 日本大学短期大学部農業科、生産教育研究所及び生活環境科の卒業生
- コ 日本大学短期大学部農学科及び生活環境学科の卒業生
- サ 日本大学短期大学部生物資源学科の卒業生
- シ 日本大学大学院農学研究科、獣医学研究科及び生物資源科学研究科の修了生
- ス 日本大学生物資源科学部生命化学科及び食品生命学科の卒業生
- セ 日本大学生物資源科学部食品ビジネス学科の卒業生

(2) 特別会員

ア 日本大学生物資源科学部教職員

イ 本会に功労があった者及び正会員3名以上から推薦された者で幹事会が承認した者

(3) 準会員

ア 日本大学生物資源科学部の在学学生

イ 日本大学大学院生物資源科学研究科及び獣医学研究科の在学学生

第3章 役 員

(役員の構成)

第9条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会 長
- (2) 副会長
- (3) 幹 事
- (4) 監査役

2 校友会役員は、日本大学校友会本部の正会員の中から選出する。

(役員の選任等)

第10条 幹事は、各分野ごとに正会員中より3名選出し、総会において承認を得る。

2 会長1名、副会長若干名は、幹事の中から選出する。その選出方法は、別に定める。

3 監査役は3名とし、総会において正会員中より選出する。

4 幹事と監査役は、相互に兼ねることができない。

(役員の職務)

第11条 会長は、本会を代表して会務を統括する。

2 副会長は、会長を補佐し会長事故あるときは会長の職務を代行する。

3 幹事は、幹事会を構成し会則および総会の議決に基づき、本会の運営について審議する。

4 監査役は、本会の経理状況を監査し、その結果を総会に報告する。

また、業務の執行状況についての意見は、監査役会の議を経て総会に報告する。

(役員の任期)

第12条 役員の任期は3年とし、再任を妨げない。ただし、満80歳をもって定年とする。

2 任期期間中に交代した役員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 役員は、任期満了後も後任者が就任するまでの期間、その任務を行うものとする。

(役員の報酬)

第13条 役員は無報酬とする。

2 本会の活動に必要な諸費用は支給する。

3 諸費用については、別に定める。

第4章 名誉会長・顧問・相談役

(名誉会長)

第14条 本会に名誉会長をおくことができる。

2 名誉会長は、学部長とする。

(顧問・相談役の選任及び職務)

第15条 本会に顧問・相談役を置くことができる。任期は3年とする。

2 顧問・相談役は会長が指名する。

3 顧問・相談役は本会の重要な事項について、会長の諮問に答える。

第5章 会 議

(会議の種類及び議長)



第16条 会議の種類は、総会、幹事会、分会長会、執行役員会とする。

2 会議は、会長が招集する。

3 総会の議長は、出席の正会員の中からその都度選出する。

4 幹事会、分会長会及び執行役員会の議長は、会長がこれに当る。

(総会)

第17条 総会は年1回通常総会を開き、必要に応じて臨時総会を開くことができる。

2 総会は、この規則で別に定めるもののほか、本会の運営に関する重要な事項を審議決定する。

3 総会の招集は、会議の日時、場所、議題等を記載した会報等により会員全員に通知しなければならない。

(幹事会)

第18条 幹事会は全ての幹事をもって構成し、総会に付すべき事項、その他本会会務の運営に必要な事項を審議する。

2 幹事会は、委任状を含めた構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。

3 委任状出席者の議決は、予め通知された議案について書面をもって行う。

4 幹事会の招集に当っては、期日の2週間前までに会議の議案書を幹事に通知しなければならない。

5 幹事の3分の1以上の要請があったときは、会長は幹事会を開かねばならない。

(分会長会)

第19条 分会長会は全分会長をもって構成し、必要に応じて本会会務の円滑な運営に必要な事項を審議する。

2 分会長会は、構成員の過半数の出席をもって成立する。

3 分会長が出席出来ない場合は、代理の出席を認める。

4 分会長会の招集に当っては、期日の2週間前までに会議の議案書を分会長に通知しなければならない。

(執行役員会)

第20条 執行役員会は会長、副会長、幹事長をもって構成し、本会通常業務の範囲内に限り、これを決定し、執行することができる。

2 執行役員会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。

(会議の議決)

第21条 会議の議決は、当日の議決権者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(議事録)

第22条 すべての会議は、議事録を作成し閲覧が可能な状態で保存しなければならない。

2 議事録に関する規定は、別に定める。

第6章 委員会

(委員会)

第23条 会長は、本会事業の効率的運営を図るために会長の諮問機関として、幹事会の議を経て委員会を置くことができる。

2 委員会の委員は、幹事若干名をもって構成し会長が委嘱する。

3 委員会の運営等は、別に定める。

第7章 会計

(会費)

第24条 本会の経費は、次の収入をもってこれにあてる。

(1) 会費

(2) 寄付金

(3) その他

2 納入金は返却しない。

(財産の管理)

第25条 財産の管理は、別に定める。

(会計年度)

第26条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第8章 事務局

(事務局)

第27条 本会の事務を遂行するため、事務局を置く。

2 事務局には、幹事長、局員を置く。また、必要に応じて事務員を置くことができる。

3 事務局の運営については、別に定める。

(幹事長)

第28条 幹事長は、幹事会の承認を経て、会長が任命する。

2 幹事長は、会長の命を受けて会務を遂行し会議において会務を報告する。

3 幹事長は、会員中より若干名の事務局員を任命することができる。

(備付け帳簿及び書類)

第29条 事務局には、別に定める帳簿及び書類を備えておかなければならない。

第9章 賞 罰

(表彰)

第30条 本会の目的達成に功労が認められた場合は、個人及び団体を表彰することができる。

2 表彰に関する事項は、別に定める。

(除名)

第31条 会員が次の各号の何れかに該当するときは、総会の議を経て、別に定める規定に基づき除名することができる。

① 日本大学の名誉を傷つけ、又は校友としての品位を害する言動があったとき。

② 故意又は重大な過失によって、日本大学及び本会に損害を与えたとき。

第10章 雑 則

(会則の改正)

第32条 本会則の改正は、幹事会並びに総会の議を経なければならない。

2 その決定にあたっては、各議において出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(規定・要領等の制定)

第33条 この会則に必要な規定は幹事会の議、また、要領等は執行役員会の議を経て会長がこれを定める。

第11章 補 則

第34条 本会則は昭和49年6月22日から施行する。

第35条

1 本会則は平成7年7月8日に一部改正する。

2 本会則は平成8年7月13日から新学部名を併記する。

3 本会則は平成14年7月13日に一部改正する。

4 本会則は平成16年7月10日に一部改正する。

5 本会則は平成17年7月9日に一部改正する。

6 本会則は平成18年7月8日に一部改正する。

7 本会則は平成20年7月12日に一部改正する。

8 本会則は平成23年7月9日に一部改正する。

9 本会則は平成26年7月8日に一部改正する。

10 本会則は平成26年7月12日に一部改正する。

11 本会則は平成28年7月9日に一部改正する。

12 本会則は平成29年7月8日に一部改正する。

校友会からのお知らせ

1 平成 29 年度の役員人事について

学部校友会の役員（会長、副会長、幹事及び監査役）の任期は1期3ヶ年で、平成28年度末で任期満了となりました。そこで平成29年度からの役員選出を次のように行いました。

- (1) 会長は、会則及び規程の定めにより会長選出会議において選出しました。
- (2) 副会長は、規程の定めにより会長が指名し幹事会の承認を得ました。
- (3) 幹事は、会則の定めにより各分会から３名選出し総会で承認しました。
- (4) 監査役は、会則の定めにより総会において正会員中から選出しました。

また、幹事長は会則の定めにより幹事会の承認を経て会長が任命しました。

就任期間はそれぞれ平成 29 年 4 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日までの 3 ケ年です。

2 平成 28 年度卒業生及び平成 29 年度新入生について

平成 28 年度の卒業生は、大学 1,583 人及び大学院 72 人で合計 1,655 人でした。平成 29 年度の新入生は、大学 1,644 人及び大学院 96 人で合計 1,740 人でした。この結果、平成 29 年 4 月 1 日現在の生物資源科学部の学生数は、大学 7,104 人及び大学院 217 人で学生総数は、7,321 人となっております。なお、学生総数に占める女子学生の割合は、3,175 人 (43.4%) です。

3 平成 29 年度藤桜（学部）祭について

平成29年度の藤桜祭は、10月28日(土)と29日(日)の2日間学内で開催されます。

校友会では、休憩の場とし事務局
会議室(2号館2階)に「OB・OGの
部屋」を準備いたしますので、校友の
皆様のご来場をお待ちしております。

4 平成 30 年度の通常総会及び懇親会の開催について

- (1) 通常総会
ア 日時：平成 30 年 7 月 14 日(土)
午後 2 時から
イ 場所：日本大学生物資源科学部
NU ホール A

- (2) 懇親会
ア 日時：平成 30 年 7 月 14 日(土)
午後 4 時から
イ 場所：日本大学生物資源科学部
食堂棟 3 階

なお、時間、場所等は変更することがありますので、予めご了承ください。

◎本会報に関するお問合せは、校友会事務局（宮島、熊澤）までお願いします。

- (1) 住 所：〒252-0880 神奈川県藤
沢市亀井野 1866
(2) T E L：0466 - 84 - 3799
(3) F A X：0466 - 84 - 3531
(4) E-mail:koyukai@brs.nihon-u.ac.jp

日本大学生物資源科学部校友会 役員名簿

(平成29年4月1日現在)

[illegible]

会報編集委員名簿

富 紫 角 満	嶽 友 笛 喜 葉	会 会 会 会 会	窪 赤 岡 山	田 尾 林 室	聡 真 堅 裕	い あ 桜 工	も す	づ な 水 学	る ろ	会 会 会 会 会	大 阿 糸 笹	石 部 井 田	敦 和 史 勝	志 時 朗 寛	F 拓 応	T 友 用	会 会 校 友 会	阿 山 明	部 下 石	申 平 義 哲 智
------------------	-----------------------	-----------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	--------	------------------	--------	-----------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	-------------	-------------	-----------------------	-------------	-------------	-----------------------

※表紙の写真は学部写真発見隊(写真サークル)の提供です。

発行所

日本大学生物資源科学部 校友会 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866

TEL:0466-84-3799 FAX:0466-84-3531 E-mail:koyukai@brs.nihon-u.ac.jp

印刷所: (株) デイ・エム・ピー 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 561 TEL: 03-5292-6800(代) FAX: 03-5292-6871